

発達障害児への実態把握にもとづく効果的支援研究



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

鶴田 敦司 Tsuruta Atsushi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 特別支援教育・発達障害児・アセスメント・教材研究



研究の概要

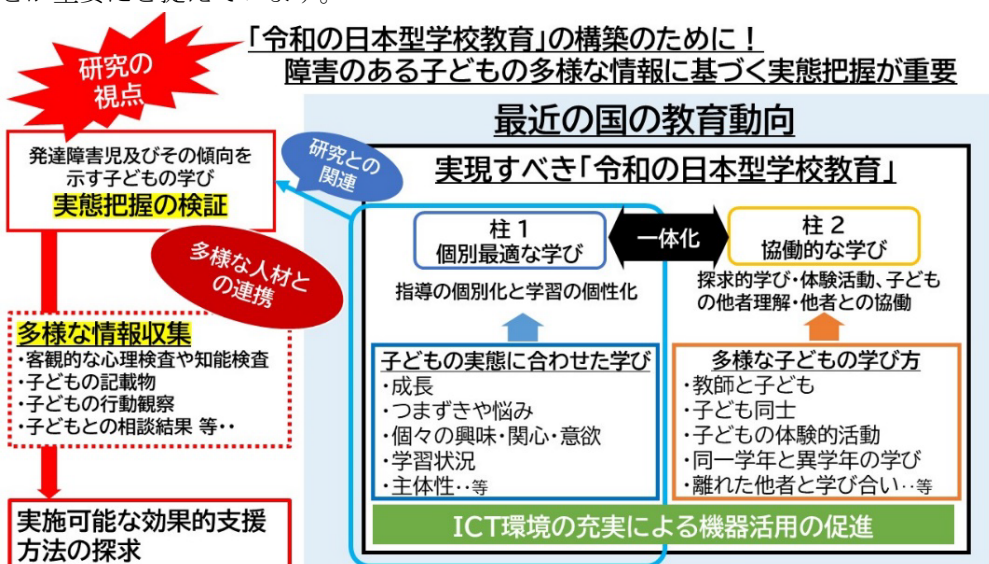
SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

文部科学省は「令和の日本型学校教育の構築を目指す（答申）」の中で、全ての子どもたちの可能性を引き出す、ICT 機器の活用を視野に入れた個別最適な学びに触れるとともに、教師間および外部の異なる知見をもつ人材の組織的な活用を述べています。

特に、発達障害およびその傾向を示す子ども達の個別最適な学びを進めていくためには、子どもの認知特性、学習上の困難さ、社会自立の障壁となっている課題等の子ども一人一人の実態把握が欠かせません。

また、適切な実態把握を進めていくためには、心理検査をはじめとした様々な検査や子どもの行動観察、子どもとの対話内容等、多様な情報収集をおこなうことが必要です。そこから導き出された子ども像にあった支援方法や教材の有効性を検討していくことが重要だと捉えています。

私の研究は、この一連の流れにもとづき、学校や家庭において実施可能な実態把握の方法を検証することから始めています。そして、学校以外の人材を通じて得る情報を関連させたり、得た子ども像から実施可能な支援方法を探り、検証したりする実践的研究に取り組んでいます。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、特別支援学校だけではなく、幼稚園、小学校、中学校、高等学校において困難さを示す子ども達の適切な実態把握につながります。実際に学校現場において、特別支援教育に関わった教師としての経験を活かした学校現場目線の支援方法や教材づくりの相談および提供ができます。特に、「個別の指導計画」の作成および「個別的教育支援計画」の策定について重要なPDCAサイクルにつながる研究であると考えています。

また、今後重要となる多様な特性の子ども達に接する教師の専門性の向上に貢献でき、学校全体として個々の子ども達へ組織的にどのように取り組むのかを導ける研究になると考えています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「Vineland-II 適応行動尺度と WISC の分析をもとにしたアセスメント方略研究」
- ・「平成 30 年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業 発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業成果報告」
- ・「特別支援学校（聴覚障害）における「個別の指導計画」作成の方向性」